

与野南小だより

11月号 令和7年11月4日発行 第7号



さいたま市立与野南小学校

【児童数】計373名
電話 831-0157



体育の授業で感じた、学びの本質

校長 土屋 智樹

10月、私が6年生の体育の授業を担当する機会をいただきました。校長として日々子どもたちの学びを見守る立場ではありますが、実際に授業を行う中で、改めて「学びとは何か」「教えるとはどういうことか」について深く考える機会となりました。

体育は、教科書がなく、学習指導要領にも「何を教えるか」「どう教えるか」が細かく記されていない教科です。その分、教師の工夫や柔軟な対応がとても大切になります。今回のバスケットボールの授業では、「ボール保持者からボールを受けることのできる場所に動く」という指導要領の言葉をもとに、私自身の経験から、パスを受けることが運動の楽しさにつながることを子どもたちに体験してほしいと考えました。そこで、パスの受け方と、それを実現するためにチームとしてどんな作戦を立てたらよいかを考える授業を行いました。

授業に向けて、子どもたちが主体的に取り組めるようにと、教材研究を重ね、準備しました。ですが、実際に授業をしてみると、子どもたちの実態に合っていない部分があり、活動内容を一部変更しました。授業計画の段階で「この進め方でわかりやすいか」「この資料は子どもたちにとって本当に必要か」といった視点で吟味することの難しさを感じました。学習者の視点に立った教材研究は、簡単なようでいてとても奥が深く、授業づくりの根幹をなすものです。また、授業は、教師の思いや計画だけでなく、時には、子どもたちの姿や反応を見ながら、柔軟に対応していくことが求められます。今回の経験を通して、日々、限られた時間の中で工夫を凝らしながら授業をされている先生方の素晴らしい姿を、改めて実感しました。

授業の終わりには、子どもたちに振り返りを書いてもらいました。「パスをつなげて楽しかった」「友達と協力できた」など、前向きな言葉が多く並び、私自身とても嬉しく思いました。子どもたちが自分の学びを言葉にすることで、学びに向かう姿勢や意欲が育っていることを感じました。

こうした姿は、「自立した学習者」への一歩だと感じます。自立した学習者とは、先生に言われたことだけをやるのではなく、自分で考え、工夫しながら学びを進めていける子どもたちのことです。自分の考えを持ち、友達と話し合いながら、よりよい方法を見つける姿勢は、これから時代にとても大切な力です。私は、子どもたちが仲間と力を合わせ、自分の考えを形にしようとする姿を見て、心が温かくなりました。パスがうまくつながったとき、シュートが決まったとき、子どもたちの顔には自然と笑顔が広がっていました。その瞬間に立ち会えたこと、そして、子どもたちと一緒に学び、成長を感じられたことが、何よりも嬉しかったです。教えることの楽しさを、心から味わうことができました。

うまくいったことも、思い通りにいかなかったことも、すべてがその子らしい学びの一歩です。これからも、子どもたちが「自分らしく学ぶ」ことを大切にしながら、一人ひとりの歩みにそっと寄り添っていきたいと思います。

